

防コミの歩き方

BOSAI
KOBEMIRAI

須磨区大黒地区「がっこうにとまろう」宿泊型防災訓練



須磨区大黒地区では毎年、地域の小中学生と高齢者が連携した訓練を実施しています。これは、昼間に地域にいるのは子どもたちと高齢者がほとんどだからです。今年は、災害時に避難所となる「だいち小学校」での宿泊体験を中心とした総合訓練を、8月1日と2日におこないました。訓練には、だいち小学校、太田中学校、神戸女子大学、看護師、消防音楽隊、消防団、警察署、消防署など、多くの関係機関から約100人のスタッフの協力を得ることができ、参加者は約160人を数えました。学校には、小学生約70人が宿泊しました。

●プログラム

開会式の後さっそく、防災福祉コミュニティの指導のもと、小中学生が防災訓練をおこないました。メニューは「簡易担架の組み立て」「小型動力ポンプの取り扱いと放水」「バケツリレー」。その間、老・婦人会や保護者、神戸女子大学の協力で、炊き出し訓練もおこなわれました。夕方には、太田中学校の吹奏楽部員と消防音楽隊の演奏に聴き入ったあと、お楽しみの炊き出しカレーライスに舌つづみを打ちました。そして、

スイカ割りや神戸女子大学の学生による防災ゲームで楽しんだ後は、防火戸が閉められた真っ暗な校舎内を、消防職員の説明を聞きながら探検し、午後10時に就寝となりました。

翌朝は6時30分に起床、朝食前に、ラジオ体操と、植栽へバケツリレーで水まきをおこないました。午前9時から、プラス・アーツの指導のもと、新聞紙による非常用資器材や食器作りを体験し、すべてのメニューを終了しました。

●訓練を振り返って

今回の防災訓練は、防災福祉コミュニティ関係者の「震災体験を風化させたくない」「子ども、高齢者、消防団など、地域住民が一体となった防災活動を」との強い想いでおこなわれました。宿泊体験を中心としたメニューを通して、楽しみながら防災について考える機会を持つことができ、地域の住民同士が交流を深められたのではないのでしょうか。また、地元の関係機関・団体の協力を得たことで一体感が生まれ、災害時の互いの協力体制を築けたものと確信しています。

(須磨消防署 甲斐康之)